

次世代の旗手たち

新連載

レシピ動画メディアで急成長 コンテンツの質を徹底的に追求

料理レシピを視聴者に分かりやすい動画にまとめ、無料で配信する「DELISH KITCHEN」を軸に急成長している。KDDI株式会社とも提携し、今後は関連EC事業の拡大を図る。

株式会社エブリー

Corporate Profile

代表取締役社長CEO 吉田大成
所在地 東京都港区六本木7-14-23
設立 2015年9月
従業員 300人(2018年8月現在)
<https://corp.every.tv/>



東京都港区のラウンドクロス六本木にある本社。入口すぐに、動画を制作するスタジオスペースが広がる

様々な情報を短い動画にまとめて配信する動画メディアを運営する株式会社エブリー。動画はすべて無料で配信する。主な収益源は、企業とのタイアップ動画制作による広告収入だ。

同社の心臓部である本社スタジオでは、料理のレシピを紹介するメディア「DELISH KITCHEN」のための撮影が一日中行われている。スタジオ内に設けた2メートル四方ほどのブースで、管理栄養士や調理師の資格を持つ社員が、調理プロセスを自身で撮影(左ページ左上写真)。動画編集スタッフが1〜2分程度に編集し、月間1000〜1500本もの動画を制作・配信し

ている。

創業4年目に入った同社は、前述の「DELISH KITCHEN」をはじめ、女性向けライフスタイルメディアの「KALOS」、ママのためのお役立ち情報を提供する「MAMADAYS」、ニュース&エンタメ情報「TIME LINE」の4メディアを運営、すべての情報を動画で提供している。

代表取締役社長CEOの吉田大成氏は、動画を使ったメディアに着目した理由として、スマートフォンの普及や通信の高速化というインフラ面の進化により、動画の視聴者数が急速に増えたことを挙げる。



吉田大成代表取締役社長CEOは、ヤフー株式会社を経て2006年にグリー株式会社へ入社。ソーシャルゲーム黎明期に数多くのヒット作を手がけた。その後、取締役執行役員常務を経て2015年に独立。同年に株式会社エブリーを創業した

「スマホの登場で誰もが手軽に動画を視聴・配信できるようになった。今後、数年内に動画の視聴環境がテレビからスマホへと大きくシフトすると考え、生活の根幹である衣食住の領域で、スマホでの動画視聴を想定したビジネスを興した」(吉田社長)。読みは当たり、DELISH KITCHENのスマホ用アプリは16年12月にリリース後、ダウンロード

数は今年に入り1100万を超えた。SNSフォロワー数も300万人以上と高い人気を誇り、文字ではなく動画で情報を得たいというユーザーのニーズを捉えている。

良質なコンテンツの蓄積が先行者の大きな強みに

「信頼され、使い続けてもらうためには、何よりもコンテンツの質を高めることが重要。プロがレシピを考案するだけでなく、1〜2分の動画を見れば誰にでもその料理を作れるというものに仕上げる。そのクオリティこそが他社との差別化につなが

る」と吉田社長は話す。同社は調達した資金のうち、コンテンツ制作に最も多くの資金を投入。300人ほどの社員のうち、およそ200人が動画制作に携わっており、今後も制作スタッフを大幅に増員する計画だ。次の成長事業として期待しているのが、レシピ動画に関連した食材などのEC(電子商取引)関連サービスだ。現在は、近隣のスーパーの特売情報の紹介や割引クーポンの配布など、食材を買うに行く利用者の利便性を向上させるサービスを提供。

「アマゾンフレッシュ」とも提携し、翌日にレシピ用の食材を届けるサービスも実施している(地域限定)。今年3月には、KDDI株式会社との提携を発表。KDDIが持つ決済機能などを活用し、ライブ配信動画を視聴しながらインターネット上で商品を購入する「ライブコマース」など、EC事業を拡大する考えだ。さらに、有料コンテンツを加えて収益構造の多様化を図る。今後、同社がどのような変貌を見せるのか目が離せない。



「DELISH KITCHEN」のYouTube上のチャンネル。配信には既存のSNSを活用しており、ほかにInstagramやフェイスブックなども活用している



管理栄養士や調理師の資格を持った専門スタッフが、レシピ・料理作りから動画撮影まで一貫して行う



キャピタリストの眼

巨大市場へのチャレンジ 前職での実績も高く評価

株式会社エブリーには「DELISH KITCHEN」のサービス開始時から注目していました。

動画コンテンツと巨大市場である「食」にフォーカスした事業ドメインは大きなポテンシャルを秘めています。一方で、大手も含め競争は激しく、ベンチャーが勝つことは容易ではありません。

吉田社長は、前職のグリー株式会社で事業責任者として数々のソーシャルゲームをヒットさせ、取締役を務めた経験があります。実績に裏打ちされた経営手腕に加え、組織を牽引する吉田社長の人間力も投資を後押しする大きな要因となりました。今後のEC事業にも大きな可能性を感じています。



SMBCベンチャーキャピタル株式会社
投資推進第一部 兼
投資営業第一部部長代理
森田 諒